



川越城本丸御殿からの挑戦状だよ!!

かわごえじょうほんまるごてん
川越城本丸御殿は、今から約160年前に当時の殿様である松平斉典により建てられた御殿です。国内に2つしか残っていないとても貴重な建物です。(もう1つは、高知県にある「高知城本丸御殿」です)

めいじ
明治時代になると本丸御殿の解体が進み、現在は当時の1/8くらいの広さになってしまいました。しかし、今の建物では考えられないほど大きな部屋や、職人の技や工夫などを見ることができます。

そこで、ここを見学に来てくれたみなさんにいくつか問題を用意しました。さてみなさんは、いったい何問解けるのでしょうか? よーく見学して、わたしの問題に挑戦してみましょ!!

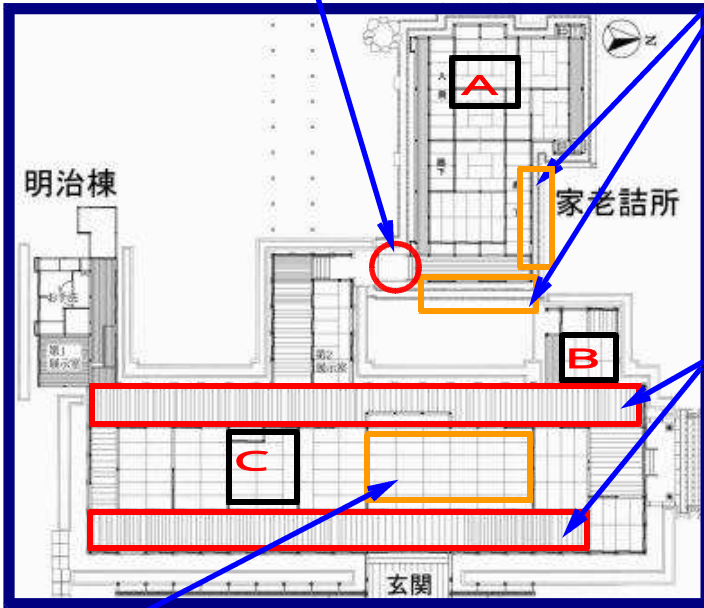
挑戦 ①

平面図の印の場所から本丸御殿の屋根瓦を見てください。よく見ると、少し変なことに気づきます。それは一体何でしょう? (ヒント: 2年半もかけて大修理をしました!!)

挑戦 ②

ちょっとした体験をしてみましょう!! 平面図の場所にある「窓」を動かしてみましょ。当時の建物の工夫を感じることができます。(やさしく動かしてね!!)

(感想)



挑戦 ③

「東廊下」と「西廊下」をくらべてみましょう。(1)廊下全体を見ると、どこが違うでしょう?

(2)窓にも違いがあります。一体どこでしょう?

挑戦 ④

入口正面に「広間」があります。

(1)この広間は畳何畳分の広さなのでしょう? 畳

(2)天井を見てください。何か変な「あと」がたくさんついています。一体、何の「あと」だと思いますか?

挑戦 ⑤

本丸御殿には「15」の部屋が残っています。平面図にあるA・B・Cの部屋は、どんな名前でしょう? (読み方も考えてね!!)

A

B

C

一 解答編 一



川越城本丸御殿 からの挑戦状だよ!!

<本カードの利用について>

- ・問題を解く順番は自由です。番号にこだわる必要はありません。
- ・各問題のタイトル横にある枠は、取り組みの確認や正誤等にご活用ください。
- ・正解は朱書きで表しています。理由や補説は 印をつけ、青書きで表しています。
- ・正解は簡単に記してありますので、詳細については裏面の「補助資料」や「学校利用解説マニュアル(学校関係者)」をご覧ください。

挑戦 ①

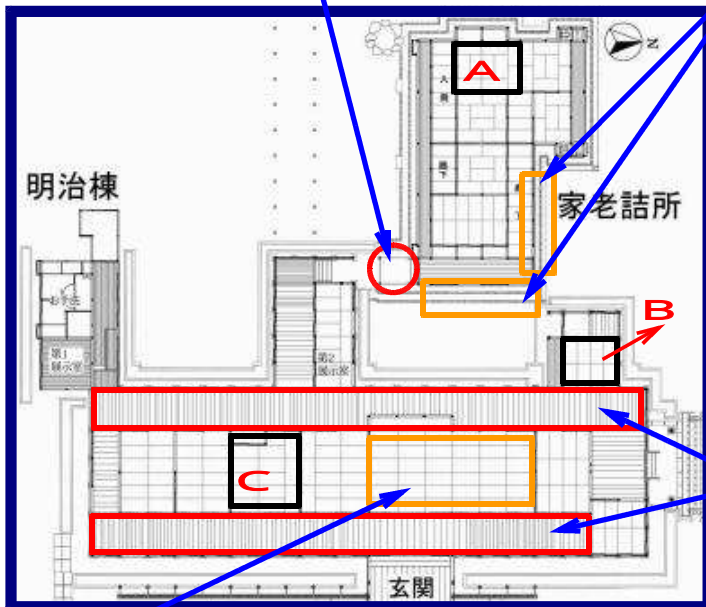
平面図の 印の場所から本丸御殿の屋根瓦を見てください。よく見ると、少し変なことに気づきます。それは一体何でしょう？
(ヒント：2年半もかけて大修理をしました!!)

(解答) 左右で瓦の色が違う。
・右が白っぽく、左が黒っぽい
2年半かけて行った解体修復工事の際、再利用できる瓦は御殿正面に配置し、新しく作った瓦は裏側に配置した。白っぽく見える方が新しい瓦である。

挑戦 ②

ちょっとした体験をしてみましょう!!
平面図 の場所にある「窓」を動かしてみよう。当時の建物の工夫を感じることが出来ます。(やさしく動かしてね!!)

カーテンの役割を備えている窓は「無双窓」雨戸の鍵は「サル落とし」と呼ばれている職人の技により、現在の生活でも使われているような装置が当時もあったことを実感させてください。



挑戦 ③

「東廊下」と「西廊下」をくらべてみましょう。
(1)廊下全体を見ると、どこが違うでしょう？

(解答例) ・西廊下の方が...高さが低い
幅は同じである
・床の材木が違う(西=ケヤキ 東=ツガ)

(2)窓にも違いがあります。一体どこでしょう？

(解答) ・敷居の溝の本数が違う(西=3本 東=2本)
通常は3本である。(雨戸用2本、障子用1本)
東廊下は、時と場に応じて雨戸と障子を入れ替えていたため、2本でなのではないかと考えられる

挑戦 ④

入口正面に「広間」があります。

(1)この広間は畳何畳分の広さなのでしょう？ 36 畳

(2)天井を見てください。何か変な「あと」がたくさんついています。一体、何の「あと」だと思いますか？

(正解) ポールの痕
戦後すぐ、中学校の屋内運動場として利用されていたときの名残

挑戦 ⑤

本丸御殿には「15」の部屋が残っています。平面図にあるA・B・Cの部屋は、どんな名前でしょう？ (読み方も考えてね!!)

A 家老詰所

B 坊主部屋

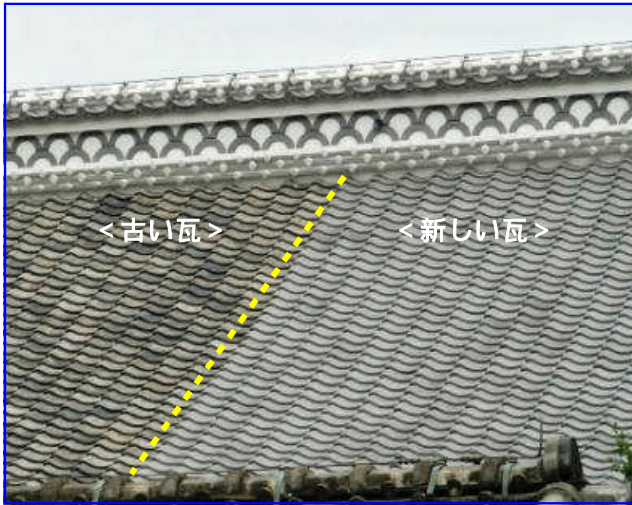
C 使番詰所

当時の図面から部屋の名称はわかるが、正式な読み方は不明である部屋の用途がわかる文献が現存していないので、漢字から想像する

一 解答編補助資料 一

学校関係者は学校利用解説マニュアルと合わせてご利用ください。

挑戦①：屋根瓦



＜ 2色に見える「屋根瓦」 ＞

- ・本丸御殿には約2万枚の瓦が葺かれている。
- ・保存修理工事では約6000枚の瓦を新製した。
- ・新しい瓦はいぶし銀色で、古い瓦との色の差があり、混在させると美しくないため、裏側に葺いている。
- ・今ははっきり色が違うが、10年も経つと色がなじみ、差は分からなくなるだろう。

挑戦③：廊下

＜ 東廊下 ＞



＜ 西廊下 ＞

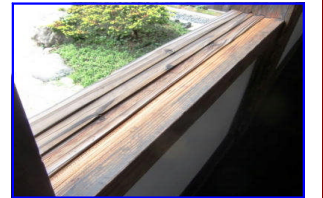


- ・幅は同じである。(1間半 = 295.425cm)
- ・高さは東廊下の方が約40cmほど高い。
- ・板の材質 = (東)ケヤキ材 (西)ツガ材

＜ 東廊下窓の敷居 ＞



＜ 西廊下窓の敷居 ＞



- ・敷居の溝の本数が違う。(東 = 2本・西 = 3本)
- ・通常、敷居の溝の本数は3本である。外側2本に雨戸が入り、内側に障子が入る。
- ・東廊下は溝が2本なので、雨戸と障子を同時に入れることができない。推測では、東廊下は表廊下としての意味合いがあり、普段は人が通らないので雨戸にし、来客時は障子2枚に交換していたと考えられる。

挑戦②：体験活動

＜ 当時の職人の技を体感する ＞

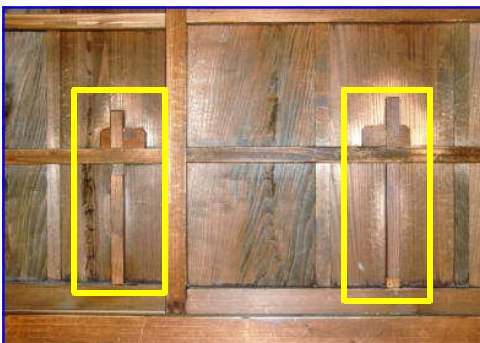
無双窓



スリット状の戸を2枚重ねて遮光する簡易な窓。現在のカーテンの機能も合わせもっている。

雨戸の鍵

別名「サル」「サル落とし」とも呼ばれる。左右に動く部分がカンヌキ代わりとなり施錠することができる。



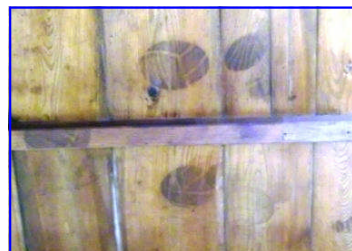
挑戦④：広間

＜ 広間の概要 ＞



- ・広間は来客や家臣の会議などに使用されていたと考えられている、36畳敷きの屋敷である。
- ・来客はこの部屋に通された後、現在の建物の南側にあった「大書院」で城主と面会していたと考えられる。

＜ バレーボールの跡 ＞



- ・本丸御殿は、戦後、第二中学校（現初雁中学校）の仮校舎、屋内運動場として利用されていた。このため、天井にボールの跡が残っている。

挑戦 については、特に補助資料を用意していない。部屋の名称や位置、大きさについては「本丸御殿パンフレット」を参照ください。